感谢语言行为的汉日对比研究

李华勇◎著

本书把电视剧台词作为研究数据，搜集整理了日汉两种语言中表达多样的感谢语言行为。书中不仅考察了日汉两种语言中感谢语言行为的

北京语言大学出版社
BEIJING LANGUAGE AND CULTURE UNIVERSITY PRESS

感谢语言行为的汉日对比研究

李华勇／著

北京语言大学出版社
BEIJING LANGUAGE AND CULTURE
UNIVERSITY PRESS

© 2017北京语言大学出版社，社图号17090

图书在版编目（CIP）数据

感谢语言行为的汉日对比研究 / 李华勇著. — 北京：北京语言大学出版社，2017.5

ISBN 978-7-5619-4907-8

I. ①感… II. ①李… III. ①对比语言学－汉语、日语 IV. ①H36②H1

中国版本图书馆CIP数据核字（2017）第096732号

感谢语言行为的汉日对比研究

GANXIE YUYAN XINGWEI DE HANRI DUIBI YANJIU

责任编辑：郑文全　　封面设计：张　静
责任印制：陈　辉

出版发行：北京语言大学出版社
社　　址：北京市海淀区学院路 15 号，100083
网　　址：www.blcup.com
电子信箱：service@blcup.com
电　　话：编辑部　8610-82301019/3393/3700
　　发行部　8610-82303650/3591/3648
　　北语书店　8610-82303653
　　网购咨询　8610-82303908
印　　刷：北京建宏印刷有限公司

版　　次：2017 年 5 月第 1 版
印　　次：2017 年 5 月第 1 次印刷
开　　本：710 毫米 × 1000 毫米　1/16　　印　　张：10.75
字　　数：219 千字
定　　价：48.00 元

PRINTED IN CHINA

前　言

对比语言学是通过语言和语言的对比研究来弄清各自的语言特性，也是研究语言本质的语言学的一个领域。对比研究是主要关于各自语言的语音和音韵、语法、词汇、语言行为等的研究。其中，语言行为的对比研究作为对比语言学领域重要的一环备受瞩目。

语言行为不仅是传达信息的工具，还是文化的载体。语言行为与根植于其所属社会的规则和规范等紧密相关，某种程度也表现着文化的侧面。因此，通过语言行为的对比研究，可以看到社会的文化侧面。关于语言行为的对比研究在许多领域开展。譬如，不同意的表达方式，赞扬的表达方式，不满的表达方式，劝诱的表达方式等等。

“感谢”作为普遍的语言行为之一也被广泛研究。感谢的语言行为无论在哪个国家的语言中都存在，日语和汉语也不例外。无论在哪个文化圈，恰当地使用感谢的表达方式，都能维护良好的人际关系。在先行研究中，有许多关于日语的感谢的研究、日语与其他语言的感谢的对比研究等。其中，围绕“感谢表达”和“致歉表达”的研究占多数。

在日语的感谢语言行为研究中，致谦表达方式在感谢场面

的使用备受关注。许多先行研究是从得利和不利、补偿方法、感谢和致歉的交替、负面意识等视点，进行感谢场面致歉表达方式的研究。在这些研究中，致歉表达方式被理解为感谢场面的表达方式之一。然而，这种语言现象并不是在所有的感谢场面中都有效，对于某种社会职能的行为的感谢，一般不使用致歉表达方式，这一点也被指出。还有，在日本社会频繁使用“再次感谢”，这在中国却很少见。对比研究，特别是汉日两种语言的对比研究中，感谢场面的不同点已经在一定程度上被弄清，不过在感谢场面如何使用致歉表达方式，致歉表达方式的存在形式，以及为何唯独日语中存在致歉表达方式而汉语中却没有等课题依然亟待解决。

本书对于汉日两种语言的感谢语言行为的方法和特征以及尚未有详细研究的“再次感谢”进行考察。汉日语言行为的对比研究能够使彼此的语言学习者更清楚地认识两种语言的异同，同时，也对学习者理解汉日两种语言背后的文化有一定帮助。此外，通过此对比研究，还可以考察与感谢语言行为的普遍性规律相关的框架。

第一章阐述研究背景和目的。第二章概述研究的框架，以及语言行为的对比研究、体谅他人的交际等理论背景。还有概述“感谢语言行为”的定义及种类等特征，对于本书所考察的“感谢语言行为”进行定义。并概括“日语的感谢表达方式和相关语言行为的研究”、“日语和其他语言感谢表达方式和语言行为的对比研究”，以及“再次感谢”的先行研究中的见解。最后，总结感谢语言行为的先行研究，以先行研究成果和课题为背景，提出本研究的研究课题。在第三章中，基于先行研究为解决研究课题对本书的研究方法及数据采集做出说明。还有整理收集

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

的数据，对感谢语言行为表达方式的多样性进行总结和分析。根据收集的数据，考察感谢程度的表示、亲切度的表示、感谢的回答等日语及汉语感谢语言行为的特征。第四章提出与感谢语言行为相关的框架，在这个框架下对第三章收集的数据进行分析和考察。在第五章中将“再次感谢”和“当场感谢”的关联,“再次感谢”的相关要素等进行考察分析。还有对于与“再次感谢”相反的“事先感谢”进行简单考察。

本书在收集汉日两种语言的感谢语言行为中使用的表达方式时，把电视剧的台词作为研究数据，考察感谢场面表达方式的多样性。为了弄清楚汉日两种语言中致歉表达方式在感谢场面的使用情况,将数据分类为“感谢型”“致歉型”“其他”“混合型”。从数据分类可以看出，先行研究中关于“汉语的感谢场面没有单独使用致歉表达方式”的观点在某种程度上是正确的,不过在汉语中有包含致歉表达方式的“混合型”的使用却是事实。

分析数据并考察汉日两种语言的感谢表达方式的特征后，提出“有关感谢的语言行为的框架”。首先,将说话人定义为S，听话人为H,再将两者的「正(=得利)」和「负（=不利·负担)」用（+）和（-）的记号来表示。还有用$\boxed{S}$と$\boxed{H}$分别表示“由说话人的行为带来的状况”和“由听话人的行为带来的状况”。S对H，有（+）和（-）的意识并进行某种语言行为。在以上前提下，可以设定八个组合。

典型的感谢语言行为的适用图表是「S（+),$\boxed{H}$(+)」と「S（+)，$\boxed{H}$（-)」，致歉语言行为的适用图表是「$\boxed{S}$（+)，H（-)」と「$\boxed{S}$（-)，H（-)」。因此，可以指出,「S（+)，$\boxed{H}$」是感谢语言行为的必要要素,「$\boxed{S}$と H（-)」是致歉语言行为的必要要

素。也可以进一步认为，在语言行为中要把握状况的全部的、固定的层面和在各个词语背景下的个别的、流动的层面。即，可以提出，在语言化中只关注组合中一部分要素的视点是很有必要的。

由于导入上述抽象化了的框架图表和表示个别的流动的层面的符号，以前尚未注意到的问题也突显出来。首先，无论日语还是汉语，在感谢的场面，都可能会注意「{S(+)}，$\boxed{\text{H}}$(-)」这个要素，通过这一要素作为致歉表达方式的语言化，可以说明在两种语言的感谢场面中致歉表达方式都可以使用的事实。并且也可以指出，通过对感谢场面来说所必须的「S(+)」这个要素是否有义务进行语言化的制约，可以解释日语的「すみません」和汉语的“不好意思”的单独使用上的不同。

最后，位于“当场感谢”延长线上的“再次感谢”，与“感谢型”“正面指向表达”可以用同样的图表解释。可是，“再次感谢”的关注条件受到时间的流动和对负面的回避等影响，可以想像与“当场感谢”有不同的特征。在本书中，由于“再次感谢”的研究数据从电视剧的台词中不易收集，所以采用问卷调查的方式收集数据。结论如下：(一)“当场感谢”和“再次感谢”之间，不存在频度的相关性。(二)一般来说，说话人得到利益越大“再次感谢”的倾向就越强。(三)对于有个人交往的对方，与对方的“社会距离”越大“再次感谢”的倾向也越强。对于没有个人交往的对方难以产生“再次感谢”。(四)在汉语中也存在“再次感谢”，不过使用频率较日语低。(五)关于“再次感谢”的表达方式，日语的「先日ありがとう」作为惯用表达方式经常被使用，但在汉语中却没有固定的惯用表达方式，“再次感谢”表达方式也很丰富。

要　旨

対照言語学は言語と言語の対照研究を通じてそれぞれの言語の特性を明らかにし、また、言語の本質を捉えようとする言語学の一分野である。対照研究は、主にそれぞれの音声と音韻、文法、語彙、言語行動などを研究対象とし、その中でも言語行動の対照研究は対照言語学領域の重要な分野として注目されている。

言語行動はメッセージを伝える道具であるだけでなく、文化の担い手でもある。言語行動は、所属している社会に根ざしているルールや規範などと緊密につながり、文化の側面もある程度表している。したがって、言語行動の対照研究を行うことで、その社会の文化の側面も観察できる。これまで言語行動の対照研究は、数多くの分野で行われてきた。例えば、不同意の表明、ほめの表現、不満表現、勧誘表現など、話し手の意思を伝達する多数の言語使用が対照研究の分野で扱われている。

「感謝」も普遍的な言語行動の一つとしてよく研究されている。感謝の言語行動はどの国の言語にも存在し、日本語や中国語も例外ではない。どの文化圏でも、感謝の表現を適切に使うことで、よりよい人間関係を維持することができる。これまでの研究の中で、日本語における感謝の研究と、日本語と他言語における感謝

の研究が数多く行われてきた。その中でも、感謝の気持ちを表す際の、「感謝表現」と「謝罪表現」の選択に絞って行われた研究が大半を占めている。

日本語における感謝の言語行動に関わる研究の中では、謝罪表現が感謝場面で使用されることがよく論じられている。先行研究の多くは利益と不利益、補償方法、感謝と謝罪の交替、負の意識などの視点から、感謝場面での謝罪表現の研究を行っており、これらの研究は、このような謝罪表現を感謝場面の表現の一つとして捉えている。このような言語現象は、すべての感謝場面で有効というのではなく、社会的役割に相当する行動に対する感謝の場合は、謝罪の言語行動をとらないと指摘されてきた。また、日本社会では「再度の感謝」が頻繁に使用されているのに対して、中国語ではあまりないと指摘されてきた。対照研究の中で、特に日中両言語の対照研究では、感謝場面の差が一定の程度で明らかになっているが、感謝場面で謝罪表現がどのように使用されているか、どのような形で存在しているか、及びなぜ単独の謝罪表現が日本語にはあるが、中国語にはないのかという課題が依然として未解決の状態になっている。

本書は日中両言語における感謝の言語行動のストラテジーとその特徴について対照研究を行う。さらに、詳細な研究のなかった「再度の感謝」について考察する。日中両言語の言語行動の対照研究は互いの言語学習者に日中両言語の共通点と相違点をより詳しく認識させると同時に日中両言語の背後にある文化をも理解させる一助としたい。加えてこの対照研究を通じて、感謝の言語行動の普遍性につながるような枠組みを考える。

各章の構成は以下の通りである。第一章では、研究の背景と目

的に言及する。第二章では、研究の枠組みである、言語行動の対照研究、配慮コミュニケーションなどの理論的な背景を概観する。また、「感謝の言語行動」の定義及び種類などの特徴を概述し、本研究で扱う「感謝の言語行動」を定義する。さらに、日本語の感謝表現やその言語行動に関わる研究、日本語と他言語との感謝表現やその言語行動に関わる対照研究、及び「再度の感謝」に関する従来の見解について概観する。最後に感謝の言語行動に関する先行研究をまとめ、その成果と課題を踏まえ、本論文の研究課題を提示する。第三章では、先行研究に基づき、研究課題を解決するための本研究の研究方法とデータ収集について述べる。また、採取したデータを整理し、感謝の言語行動における表現のバリエーションをまとめ、分析を行う。また、第三章では、収集したデータに基づき、日本語と中国語における感謝の言語行動の特徴を考察する。第四章は、感謝の言語行動に関する枠組みを提案して、第三章で収集したデータをこの枠組みの下で分析、考察する。第五章は「再度の感謝」を取り上げ、「再度の感謝」と「その場の感謝」との相関、「再度の感謝」に関与する要素などを明らかにする。また、「再度の感謝」と鏡像関係にある「事前の感謝」についても触れる。

本書は、日中両言語における感謝の言語行動の使用表現を収集する際に、テレビドラマのセリフを研究データとして、感謝場面の表現のバリエーションを考察した。また、日中両言語において、謝罪表現の感謝場面での使用を解明するために、表現を「感謝型表現」、「謝罪型表現」、「その他の表現」、「混在型表現」に分類した。データの分類から、従来の研究で「中国語の感謝場面で単独の謝罪表現の使用はない」という指摘はある程度正しいが、謝罪表現

を含む「混在型表現」の使用が中国語にあることが明らかとなった。データを分析し、日中両言語の感謝表現の特徴を考察したあと、「感謝の言語行動に関する枠組み」を提案した。まず、「話し手S、聞き手H」を設定して、両者の「プラス（＝利益）」と「マイナス（＝不利益・負担）」を（+）（-）の記号で示す。また、「話し手の行為によってもたらされた状況」と「聞き手の行為によってもたらされた状況」を、それぞれ$\boxed{S}$と$\boxed{H}$で示す。以上の状況で、「SはHに対して、（+）と（-）を意識して、何らかの言語行動を行う」という前提条件を設定し、八つの可能な組合せを設定した。

典型的な感謝の言語行動の適用図式は「S（+），$\boxed{H}$（+）」と「S（+），$\boxed{H}$（-）」であり、謝罪の言語行動の適用図式は「$\boxed{S}$（+），H（-）」と「$\boxed{S}$（-），H（-）」である。従って、感謝の言語行動は、少なくとも「S（+）と$\boxed{H}$」という要素、そして、謝罪の言語行動は、少なくとも、「$\boxed{S}$とH（-）」という要素が必要であることを指摘した。さらに、言語行動においては、状況把握のための全体的・固定的な側面と、個々の発言の背景にある個別的・流動的な側面があることを主張した。すなわち、言語化においては、それぞれの組み合わせ内の一部の要素のみに注目するという視点が必要であると提案した。

上記の抽象化した枠組み・図式と個別的・流動的側面を示す記号を導入することで、従来気づかれなかった現象も浮き彫りになった。まず、日本語でも中国語でも感謝の場面では、「{S（+）}，$\boxed{H}$（-）」という注視が可能であり、それが謝罪表現として言語化することによって、両言語の感謝場面で謝罪表現が用いられる事実を説明することが可能となった。さらに、感謝場面にとって必須の「S（+）」という要素の言語化に関する制約によって、日本語の「すみません」と中国語の「不好意思」の単独使用に関する差が説明できる可能

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

性について指摘した。

さらに、日本語の「すみません」(「謝罪型表現」) と「ご迷惑」類と「お疲れ、ご苦労」類と、中国語の“麻烦”“辛苦”“问责”“破费”類の表現が、同一の図式 ({S (+)}, $\boxed{H}$ (-)) で解釈できるという事実や、「ご迷惑をおかけしました」と“给你添麻烦了”が「すみません」に類似する機能をもち、単独で使用されても問題ないという事実も指摘し、日本語対中国語という全体的なレベルではなく、個々の表現に則した細かな比較が必要であることを強調した。

また、「その場の感謝」の延長線に位置する「再度の感謝」は、「感謝型表現」・「プラス指向表現」と同様、同一の図式で解釈できる。しかし、「再度の感謝」の注目条件が時間の流れとマイナスの回避などの影響を受け、「その場の感謝」と異なる特徴があると考えられ、本研究では、「再度の感謝」に関する研究データはテレビドラマのセリフからの入手が難しいため、アンケート調査を行い、データを収集し考察することにした。考察した結果、“①「その場の感謝」と「再度の感謝」の間に、頻度の相関性は存在しない。②一般的には、行為をしてもらった人の利益が、大きければ大きいほど、「再度の感謝」をする傾向が強くなる。③個人的付き合いのある相手の場合は、相手との「社会的距離」が大きければ大きいほど、「再度の感謝」をする傾向が強くなる。個人的付き合いのない相手の場合は「再度の感謝」は生じにくい。④中国語において、「再度の感謝」は存在しているものの、使用頻度は日本語より低い。⑤「再度の感謝」の表現について、日本語においては「先日はありがとう」のような慣用表現がよく用いられる。中国語においては慣用表現が定着しておらず、「再度の感謝」表現のバリエーションが豊かである”ということが明らかになった。

目 录

はじめに……1

第一章　研究の概要……3

1.1　研究の背景……3

1.2　研究の目的……5

1.3　論文の構成……5

第二章　研究の枠組み、「感謝の言語行動」に関する先行研究及びその問題点……7

2.1　言語行動と対照研究……7

2.2　配慮言語行動の理論と対人配慮の方法……9

2.2.1　配慮言語行動とは……9

2.2.2　対人配慮の方法……10

2.3　感謝の言語行動……12

2.3.1　言語行動としての「感謝」……12

2.3.2　感謝と他の言語行動の比較……14

2.4　「感謝の言語行動」の定義……15

2.5　「感謝の言語行動」に関する先行研究……16

2.5.1　日本語の感謝表現やその言語行動に関わる研究……17

2.5.1.1 理論的及び概念的研究 17
2.5.1.2 実証的研究 23
2.5.2 感謝表現やその言語行動に関わる日本語と他言語との対照研究 27
2.5.2.1 日英の対照研究 27
2.5.2.2 日韓（朝）の対照研究 29
2.5.2.3 日中の対照研究 30
2.6 「再度の感謝」の先行研究 32
2.7 問題点と研究課題 34
第三章 日本語と中国語における感謝の言語行動の特徴 37
3.1 研究方法 37
3.1.1 言語行動に関する研究方法の概観 37
3.1.2 本論文の研究方法 38
3.2 研究データ 42
3.2.1 感謝型表現 48
3.2.1.1 日本語の感謝型表現 48
3.2.1.2 中国語の感謝型表現 55
3.2.2 謝罪型表現 67
3.2.3 その他の表現 68
3.2.3.1 プラス指向表現 68
3.2.3.2 マイナス指向表現 74
3.2.4 混在型表現 77
3.2.4.1 「謝罪型＋感謝型」 77
3.2.4.2 「感謝型」＋「その他」 79
3.2.4.3 「謝罪型＋その他」 81
3.2.4.4 「感謝型＋謝罪型＋その他」 82
3.2.5 データの統計 83

3.2.6 感謝の言語行動の側面 85
3.2.6.1 感謝の程度の表示 86
3.2.6.2 丁寧度の表示 88
3.2.6.3 感謝への応答 89

第四章 「感謝の言語行動」に関する枠組みの提案 94

4.1 感謝場面が成立するための条件 94
4.2 言語行動における全体的・固定的側面と個別的・流動的側面 99
4.3 感謝の言語行動に関わる要素と言語表現 104
4.3.1 S (+), {H (+)} 105
4.3.2 S (+), {H (−)} 106
4.3.3 {S (+)}, H (+) 106
4.3.4 {S (+)}, H (−) 106
4.4 謝罪型表現に関する日中の類似点および相違点 108
4.5 日本語と中国語における「その他」の表現について 113

第五章 日本語と中国語における「再度の感謝」 118

5.1 問題点と研究目的 119
5.2 調査の概要 121
5.2.1 調査対象 121
5.2.2 場面設定 121
5.2.3 対人設定 122
5.2.4 質問設定 123
5.3 調査の結果 124
5.4 考察と分析 125
5.4.1 「再度の感謝」と「その場の感謝」との相関 125
5.4.2 「再度の感謝」に関与する要素 126

5.4.2.1 分析 1 ……126
5.4.2.2 分析 2 ……127
5.4.3 中国における「再度の感謝」の言語行動……128
5.5 「事前の感謝」……132

第六章 まとめと今後の課題……137
6.1 まとめ……137
6.2 今後の課題……141

参考文献……143

謝 辞……153

はじめに

日本と中国とは隣国として長い交流の歴史を有している。特に中国の改革・開放以来、経済の発展にしたがって、政治と経済のみならず、教育・医療・科学などいろいろな分野で交流が盛んである。日中両国の交流が飛躍的に発展するにつれ、両国の人々の移動、接触の機会も多くなってきた。また、日本人中国語学習者や中国人日本語学習者の数も毎年増加している。日中両国とも漢字圏の国として、共通の漢字文化を有しているが、漢字以外の文化の面では、異なることも多く、一つの物事に対する思考や行動様式は必ずしも一致しない。そのため、両国の人々、特に日中交流に携わっている人々が、互いの文化を知り、互いの理解を深めることは重要な課題の一つである。日中の異文化コミュニケーションにおいて、相手のことばの背後にある文化や習慣をよく知り、最大限に摩擦を避け、相手とのコミュニケーションが円滑に進められることが望まれる。

実生活では、言語行動が途絶えることはない。言語行動の一分野として、感謝の言語行動も頻繁に行われている。これは他人から何らかの好意や利益を受け、感謝の言葉で謝意を表すというものである。しかし、異なる社会では、それぞれの言語文化、対人意識、社会規範などが必ずしも一致するわけではない。従って、これらのものに深く根ざしている感謝の言語行動も必ずしも一致するわけではない。感謝の言語行動における条件が、各言語において、共通の部分もあると同時に異なる部分もある。しかし、ある言語社会では、他言語話者には独

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com